

学校番号	203
------	-----

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	MOUSA 1 (教育芸術社)						
副教材等	つどい (啓隆社) 自主制作プリント 合唱楽譜等						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」の4つの分野を通して学習します。 ・学習の到達度は、学習の取り組み状況、実技における課題進捗状況、学習プリント、創作曲、発表などを基に総合的に判断した上で決定します。また、成績が過去の音楽経験の有無によって大きく左右されることのないよう、授業における学習等進捗によって評価します。 ・音楽の学習は様々な経験を通してこそ価値のある物であり、感性が豊かになります。 ・音楽が将来にわたって、皆さんの心の支えとなり、生きていく力となることを願っています。
--

2 学習の到達目標

<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深くかかわる資質・能力を次の通り育成することをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり、音楽を愛好する心情を育とともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
--

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。知識 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。技能 	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを甘受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。</p>	<p>主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

※令和4年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	自分の声を磨く	【歌唱】 発声法 校歌 日本の歌曲 外国の歌曲	a: 【知】 発声の違いによる歌唱表現の特徴について理解している。 【技】 発声、姿勢や呼吸など、身体を使う技能、言葉との調和を意識して歌う技法を身につけ、歌唱で表現している。 b: 自分の声、楽曲のリズムや旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したことの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように歌うかについて表現意図をもってしている。 c: 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心を持ち、楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	観察 ワークシート 演奏発表	演奏発表 振り返り レポート	観察 ワークシート
	リズム表現を楽しむ	【器楽】 カホン カホンの基本的な奏法 リズムの読譜・記譜 【創作】 リズム例を元に、自分のリズムをつくる	a: 【知】 音の長さや音符の組み合わせによるリズムとカホンの基本的な奏法について理解している。 【技】 リズム譜を読譜し、正確に演奏するための技術を身に付けている。 b: リズムを知覚し、その働きや効果を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、自己のイメージを持ってどのように表すかについて表現意図をもってしている。 c: リズムの特徴、反復や強弱によるリズム表現の効果に関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 演奏	演奏 作品	観察 振り返り レポート

※令和4年度以降入学生用

1学期	音楽を聴く力を養う	<p>【鑑賞】 「青少年のための管弦楽入門」</p>	<p>a:【知】管弦楽で扱われる楽器の種類や個々の音色、管弦楽の編成について理解している。</p> <p>b:音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きや効果を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いている。</p> <p>c: 楽器の音色、変奏とフーガで繰り返される旋律の特徴、楽器の組み合わせや編成上の効果による合奏の響きに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート	ワークシート 観察	振り返り レポート
2学期	ハーモニーを作る	<p>【歌唱】 混声四部合唱曲</p>	<p>a:【知】自分のパートの旋律と他パートとの関わりについて理解している。【技】他パートとの調和を意識し、歌唱で表現している。</p> <p>b:自分のパートの旋律、他パートの旋律、またそれらの調和を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持っている。</p> <p>c:自分のパートと他パートで創り上げるハーモニーに関心を持ち、主体的・能動的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>	観察 ワークシート 演奏発表	演奏発表 振り返り レポート	観察 振り返り レポート

※令和4年度以降入学生用

2学期	ギター入門	<p>【器楽】ギター 「カノン」</p>	<p>A:【知】基本的な奏法と曲想と音色や奏法との関わりについて理解している。</p> <p>【技】曲にふさわしい奏法、身体の使い方の技法を身につけている。</p> <p>b:ギター演奏に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージを持って演奏を創意工夫している。</p> <p>c:ギターの音色と奏法に興味関心を持ち、主体的・協働的にギターの学習活動に取り組もうとしている。</p>	演奏	ワークシート 演奏	観察 振り返り レポート
	日本音楽に触れる	<p>【器楽】箏または三線 基本的な奏法と唱歌</p> <p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の楽曲 ・現代の曲 	<p>a:【知】箏・三線の構造や基本的な奏法、文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</p> <p>【技】箏・三線の音色を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、演奏で表している。</p> <p>b:箏・三線の音色や音階を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。</p> <p>箏・三線の音色や音階によって生まれる音楽の良さや価値について考え、音楽の良さや美しさを味わって聴いている。</p> <p>c:日本音楽の文化や歴史的背景に興味関心を持ち、主体的・協働的に楽器の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 演奏	ワークシート 演奏	振り返り レポート 観察

※令和4年度以降入学生用

	第九にチャレンジ	<p>【歌唱・鑑賞】 ベートーヴェン作曲 交響曲第9番ニ短調 Op.125 「合唱付き」から第4楽章 『歓喜の歌』より</p>	<p>a:【知】第9の作品的価値と歌詞の意味、「歓喜の主題」の4部合唱部分のメロディーを理解している。【技】「歓喜の主題」を自分に適した音を選び、曲種に応じた発声、正しい発音をするための技能を身に付けている。 b:音楽を形作っている主題要素やパート同士の関連を知覚し、「歓喜の主題」の美しさを味わって聴き、またどのように演奏するかについて表現意図を持っている。 c:自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考え、主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>	<p>観察 ワークシート 演奏動画</p>	<p>演奏動画 振り返り レポート</p>	<p>観察 振り返り レポート</p>
3学期	世界の音楽を知る	<p>【鑑賞】 アジアの弦楽器</p>	<p>a:【知】楽器の構造や音の出る仕組み、奏法、それぞれの楽器の音色や楽器の特徴を理解している。 b:音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 c:アジアの音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、表現の特徴について関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート	ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

	<p>クラス別発表会</p>	<p>【歌唱】 クラス別自由曲</p> <p>【鑑賞】 相互の演奏発表</p>	<p>a:【知】曲想と音楽の構造やについて理解している。【技】他者との調和を意識して歌う技能を身につけ、歌唱で表現している。</p> <p>b:自分のパートの旋律、他パートの旋律、またそれらの強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持ち、歌唱表現を創意工夫している。ハーモニーを知覚し、その働きを感じ、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いている。</p> <p>c:ハーモニーを創り上げることに関心を持ち、主体的・能動的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>	<p>演奏発表</p>	<p>ワークシート</p> <p>演奏発表</p>	<p>振り返りシート</p>
--	----------------	---	---	-------------	---------------------------	----------------

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	203
------	-----

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	MOUSA2 (教育芸術社)						
副教材等	つどい (啓隆社) 自主制作プリント 合唱楽譜等						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」の分野を通して学習します。 ・学習の到達度は、学習の取り組み状況、実技における課題進捗状況、ワークシート、創作曲、発表などを基に総合的に判断した上で決定します。また、成績が過去の音楽経験の有無によって大きく左右されることのないよう、授業における学習等進捗によって評価します。 ・合唱や合奏の発表を大きな目標として、みんなで音楽を創り上げる喜びを共感しましょう。

2 学習の到達目標

<p>音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽。音楽文化と深くかかわる資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり、及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 個性豊かに音楽表現に創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
--

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の耐用性について理解を深めている。 知識 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で個性豊かに表している。 技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに表すために意図表現を創意工夫したり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組み、音楽文化に親しもうとしている。

※令和4年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	自分の声を磨く	【歌唱】 発声法・呼吸法 日本、外国の歌曲	a:【知】言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解している。【技】曲にふさわしい発声、姿勢や呼吸など、身体使う技能、言葉の特性を意識して歌う方法を身に付け、個性豊かに歌唱で表現している。 b:自分の声、楽曲のリズムや旋律を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や特質を感じ取り、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 c:様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性に関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	観察 ワークシート 演奏発表	演奏発表 振り返り レポート	観察 ワークシート
	ギターの伴奏法	【器楽・創作】 弾き語り ギターによる伴奏付け	a:【知】音の重なりによる響き、コードの種類、音型や構成上の特徴について理解している。【技】曲にふさわしいコード進行を選び、それによって生み出される表現上の効果を生かして演奏する技術を身に付けている。 b:ギターの音色、奏法との関わり、およびその関わりによって生み出される表現上の効果を工夫している。 c:ギターの伴奏法に関心を持ち、主体的・協働的に活動に取り組み、音楽文化に親しもうとしている。	観察 ワークシート 演奏発表	演奏発表 振り返り レポート	観察 振り返り レポート

※令和4年度以降入学生用

2 学期	第九に チャレンジ	<p>【歌唱・鑑賞】</p> <p>ベートーヴェン作曲 交響曲第9番ニ短調 Op. 125 「合唱付き」 から第4楽 章 『歓喜の歌』より 2重フーガ部分</p>	<p>a:【知】2つの主題について知り、 音楽的な性格の違い、また表現上 の効果について理解している。</p> <p>【技】2つの主題が重なる「2重 フーガ」を聴き分ける、また演奏 するための技術を身に付けてい る。</p> <p>b:音楽を形作っているフーガの 要素やパート同士の関連を知覚 し、「2重フーガ」の美しさを味 わって聴き、またどのように演奏 するかについて表現意図を持っ ている。</p> <p>c:自分や社会にとっての音楽の 意味や価値を考え、主体的・協働 的に取り組み、音楽文化に親しも うとしている。</p>	観察 ワークシート 演奏動画	演奏動画 振り返り レポート	観察 振り返り レポート
	ヴァイオリンに チャレンジ	<p>【器楽】</p> <p>ヴァイオリンの基本的な奏 法 「きらきら星」</p>	<p>A:【知】基本的な奏法と音色や奏 法との関わりについて理解して いる。</p> <p>【技】曲にふさわしい奏法、身体 の使い方の技法を身につけてい る。</p> <p>b:ヴァイオリン演奏に関わる知 識や技能を得たり生かしたりし ながら、自己のイメージを持って 演奏を創意工夫している。</p> <p>c:ヴァイオリンの音色と奏法に 興味関心を持ち、主体的・協働的 にヴァイオリンの学習活動に取 り組もうとしている。</p>	観察 ワークシート 演奏発表	演奏発表 振り返り レポート	観察 振り返り レポート

※令和4年度以降入学生用

3 学期	ミ ュ ー ジ カ ル を 上 演 し よ う	<p>【歌唱・鑑賞】 独唱・合唱を生かしてミ ュージカルを作る</p>	<p>a: 【知】ミュージカルの作品の構造や歌詞、文化的・歴史的背景意図の関わり及びそのかかわりによって生み出される表現上の効果について理解している。</p> <p>【技】ミュージカルを形作っているパートやその役割を知覚し、その働きを意識しながら、それらと調和させて演奏している。</p> <p>b: 表現意図にあった歌唱の技術を身につけ、ストーリーあわせ創造的に表現している。</p> <p>登場人物の役割やパートによる音の重なり方、演奏者による表現を味わって聴いている。</p> <p>c: ミュージカル作品のストーリーやナンバー、演出など作品を構成するものに興味を持ち、作品の上演と鑑賞にむけて主体的、協働的に取り組んでいる。</p>	<p>観 察 ワ ー ク シ ー ト 演 奏 発 表</p>	<p>演 奏 発 表 振 り 返 り レ ポ ー ト</p>	<p>観 察 ワ ー ク シ ー ト</p>
---------	--	---	--	--	--	--

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	203
------	-----

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	「書道 I」 (東京書籍)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校の書写の授業で学んだことを発展させて、芸術科書道では用具用材の違いによる表現の違いなどを学びましょう。 ・行書から入り、楷書・篆書などの書体や仮名を学んで、筆の弾力を使いこなし、感性を高め、表現と鑑賞の基礎的・基本的な能力を伸ばすことを目指します。 ・身近に飾れる個性豊かな書作品を作ること達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。

2 学習の到達目標

<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。 ・生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造しようとしている。
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	書写と書道	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校国語科書写の確認をした上で、高校芸術科書道の導入として、基本的な用具・用材や姿勢・執筆法を学び、書表現の多様性について理解する。ペン字も実施する。 	<p>a: 書写と書道の共通点と相違点について理解している。書表現をするための基本的な技能を身に付け、表している。</p> <p>b: 姿勢・執筆法や用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて幅広く理解し表現している。</p> <p>c: 主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 作品	ワークシート	振り返りシート 作品
	漢字の書(行書)	<ul style="list-style-type: none"> ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付ける。 ・古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する。 ・一字書の作品制作を通して、意図に基づいた表現をする。 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりを理解する。 	<p>a: 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりなどについて、書の創造的活動を通して理解を深めている。</p> <p>a: 古典に基づく基本的な用筆・運筆や、古典の線質、字形や構成を生かした表現など、書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付けている。</p> <p>b: 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成、意図に基づいた表現など、書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫している。</p> <p>c: 漢字の書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている。</p>	古典観察シート 作品	古典観察シート	振り返りシート 作品

※令和4年度以降入学生用

二学期	漢字仮名交じりの書	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の鑑賞、言葉の選定、作品制作(顔彩使用) 作品鑑賞を生かして、自身の表現を思い描き、意図に基づいて言葉を選定し、構想と表現を工夫して作品制作する。 ・相互鑑賞会 他者と作品の共有・相互鑑賞を生かして作品制作を行う。 	<p>b: 自身の表現の意図に基づいて言葉を考え、選定できている。既得の用筆や運筆を活用して、作品を構想し表現を工夫している。</p> <p>a: 既得の知識や技能を効果的に表現している。用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて幅広く理解し表現している。</p> <p>c: 漢字仮名交じり文の書の基本的な要素、紙面構成など書の表現性、表現効果に関わることについて、主体的に自身の意図に基づく表現を工夫し表そうとしている。他者の作品について積極的に意見を述べるとともに、自身の作品に対する他者の意見を聞いて、作品をより良いものにしようとしている。</p>	ワークシート 作品	ワークシート 相互批評記録	振り返りシート 作品
	篆刻	<ul style="list-style-type: none"> ・姓名印を篆書体で制作する。 ・毛筆とは異なる用具・用材の正しい使い方を理解し慣れる。 ・篆刻の刻し方を理解し、工夫して表現する。 ・色々な字典を利用し、個性的な表現を工夫する。 	<p>a: 毛筆とは異なる用具・用材の正しい使い方を理解し、表現する技能を身に付けている。</p> <p>b: 篆刻のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫している。</p> <p>c: 篆刻の基本的な要素や表現効果に関わり、主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 作品	ワークシート	振り返りシート 作品

※令和4年度以降入学生用

	漢字の書 (楷書)	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の学習を通して、基本的な用筆法・運筆法を学ぶ。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付ける。 ・古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する。 ・各古典の表現の違いを理解し、その特徴を時代と人物を通して鑑賞する。 	<p>a: 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりなどについて、書の創造的活動を通して理解を深めている。</p> <p>a: 古典に基づく基本的な用筆・運筆や、古典の線質、字形や構成を生かした表現など、書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付けている。</p> <p>b: 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成、意図に基づいた表現など、書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫している。</p> <p>c: 漢字の書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている。</p>	古典観察シート 作品	古典観察シート	振り返りシート 作品
三学期	仮名の書	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の学習を通して、基本的な用筆法・運筆法を学ぶ。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付ける。 ・古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する。 	<p>a: 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書風と用筆・運筆との関わりなどについて、書の創造的活動を通して理解を深めている。</p> <p>a: 古典に基づく基本的な用筆・運筆や、古典の線質、字形や構成を生かした表現など、書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付けている。</p> <p>b: 古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成、意図に基づいた表現など、書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫している。</p> <p>c: 仮名の書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 作品	ワークシート	振り返りシート 作品

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	203
------	-----

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	書道Ⅱ (東京書籍)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<p>書道1の授業で学んだことを発展させて、新たな書体を学び、文字の表情の違いによる表現の違いを学びましょう。</p> <p>漢字の書から、漢字仮名交じりの書、仮名の書等体得し、自分らしい文字を書くことができるようになることを目指します。</p> <p>身近に飾れる個性豊かな書作品を作ることで達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。</p>

2 学習の到達目標

<p>書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方、考え方を働かせて、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質、能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書の良さや美しさを享受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<p>・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。</p> <p>・書の伝統に基づき、効果的に表現する作品を効果的に表現するための技能を身に付け、表している。</p>	<p>書の良さや美しさを享受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。</p>	<p>主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</p>
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

4 学習の活動

学	単	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法
---	---	------	-------------	------

※令和4年度以降入学生用

				知(a)	思(b)	主(c)
一 学 期	漢 字 の 書	<p>・楷書、行書、草書、隸書及び篆書の古典臨書を通じて、表現形式に応じた全体の構成と、漢字の書を構成する様々な要素を理解する。</p> <p>・漢字の書の書体や書風に即した用筆、運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する(創作)</p>	<p>a: 漢字の書を構成する様々な要素や、各書体の古典の特徴と用筆、運筆との関わりについて理解している。</p> <p>a: 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深めている。</p> <p>a: 各書体の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体の構成の技能を身につけている。</p> <p>b: 各書体の古典の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。</p> <p>b: 各書体の古典の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書の良さや美しさを味わって深く捉えている。</p> <p>c: 主体的に漢字の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>c: 主体的に漢字の書の創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	作品 古典観 察シート	作品 古典観 察シート	作品 振り返り シート

※令和4年度以降入学生用

<p>二学期</p>	<p>仮名の書</p>	<p>・臨書を通じて、古筆(平仮名、変体仮名、片仮名)の表現形式に応じた全体の構成と、仮名の書を構成する様々な要素を理解する。</p> <p>・古筆の書体や書風に即した用筆、運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する(創作)</p>	<p>a: 仮名の書を構成する様々な要素や、仮名の古筆の特徴と用筆、運筆との関わりについて理解している。</p> <p>a: 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深めている。</p> <p>a: 仮名の古筆に基づく効果的な表現の技能、墨継ぎや散らし書き等による全体の構成の技能を身につけている。</p> <p>b: 仮名の古筆の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。</p> <p>b: 仮名の古典の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書の良さや美しさを味わって深く捉えている。</p> <p>c: 主体的に仮名の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>c: 主体的に仮名の書の創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	<p>作品 古典観察シート</p> <p>創作ワークシート</p>	<p>作品 古典観察シート</p> <p>創作ワークシート</p>	<p>作品 古典観察シート</p> <p>創作ワークシート</p>
------------	-------------	--	---	---------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------

※令和4年度以降入学生用

漢字仮名交じりの書	<p>・目的や用途、表現形式に応じた全体の構成と漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素を理解する。</p> <p>・感興や意図に応じた、漢字(楷書、行書、隸書、草書)と仮名(平仮名、片仮名)の調和等による、全体の構成を工夫しながら、表現する。(創作)</p>	<p>a: 漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素や、名筆や現代の様々な書の表現と用筆、運筆との関わりについて理解している。</p> <p>a: 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じりの書の特筆とその歴史、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深めている。</p> <p>a: 目的や使途、意図に応じた効果的な表現の技能、漢字と仮名の調和等による全体の構成の技能を身につけている。</p> <p>b: 目的や使途、表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現、現代に生きる創造的な表現について構想し工夫している。</p> <p>b: 創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書の良さや美しさを味わって深く捉えている。</p> <p>c: 主体的に漢字仮名交じりの書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>c: 主体的に漢字仮名交じりの書の創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	作品 ワークシート	作品 ワークシート	作品 ワークシート
-----------	---	--	--------------	--------------	--------------

※令和4年度以降入学生用

三学期	篆刻、刻字	<p>篆刻を構成する様々な要素する様々な要素、書体、書風や配字等による表現の効果を理解する。</p> <p>・篆刻の表現形式に応じた感興や意図に応じた、個性的な表現について構想し、工夫しながら、表現する。(創作)</p>	<p>a:篆刻を構成する様々な要素、書体、書風や配字等による表現の効果を理解している。</p> <p>a:線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深めている。</p> <p>a:目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能、書体、書風、配字等による全体の構成の技能を身につけている。</p> <p>b:篆刻の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫している。</p> <p>b:作品の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書の良さや美しさを味わって深く捉えている。</p> <p>c:主体的に篆刻の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>c:主体的に篆刻の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>C:主体的に篆刻や刻字の創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	作品 ワークシート	作品 ワークシート	作品 振り返りプリント
-----	-------	--	---	--------------	--------------	----------------

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	「美術 1」 (光村出版)						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・ 周囲と自分の関りや新たな気づきが表現につながることを留意しながら学習を進めます。
- ・ 形態や色彩の適切な捉え方や、材料や素材の扱い方、使用方法を学びながら自己の表現力の向上を目指す学習活動を行います。
- ・ 作品完成後は振り返りレポートや相互批評を行い作品に対する客観的な視点や相互理解を深める学習活動を行います。

2 学習の到達目標

- ・ 造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。
- ・ 造形的な良さや美しさ、表現の意図や創意工夫、美術の働きなどについて考え、新たな視点や気づきをもって創造的に発想・構想し、価値意識をもって美術文化に対する見方や感じ方を深めることができる。他者の作品を認め相互理解を図ることで、自作品の客観的視点を養うことができる。
- ・ 主体的に美術の創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	形や色彩、素材などの造形的特徴を捉えて主題に沿った表現が行えているかや、材料や用具の特性を活かして表現方法を工夫しているかを評価します。	造形的な見方、考え方を働かせて感じたことや考えたことを創造的に表現できているか、また、他者の作品の良さを理解し自身の作品への客観的視点が養われているかを評価します。	主体的に創造活動に取り組み、新たな気づきや視点を表現に組み入れながら活動に取り組んでいるかを評価します。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	浮いた立方体を描く	<p>【絵画】【鑑賞】</p> <p>1、主題の設定 与えられたモチーフについて形態について理解し、影のつけ方などイメージを明確にする。</p> <p>2、制作 鉛筆や消しゴム等の材料を活かしてグレースケールを作成し、表現方法を工夫し表す。</p> <p>3、鑑賞 お互いの完成作品を振り返りシートやスライドを使い相互批評しあう。</p>	<p>a: (知識) 立方体の形態や光と影の成り立ちといった特徴を把握できているか。</p> <p>(技能) 意図に応じて材料や用具の特性を活かすとともに陰影のつけ方等表現方法を工夫して主題を追究できているか。</p> <p>b: (発想や構想) 造形的な見方、考え方を働かせて感じ取ったことや考えたことを創造的に表現できているか。</p> <p>c: 振り返りシートをもとに主体性を持って活動や取り組みについて記入することができる。</p>	ワークシート 作品	作品 取り組み状況	ワークシート 取り組み状況
				振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

	桜塚高校ウエルカムポスター	<p>【デザイン】【鑑賞】</p> <p>・色彩基礎について「色の三原色」「光の三原色」について学び、構成について考えることができる。アクリルガッシュの絵の具の特性について学び、主題に合うように明度・彩度・配色・構成等を工夫し表現する。</p> <p>・桜塚高校の「Welcome ポスター」のテーマに合わせ主題を考え、人に伝わる作品づくりができる。</p>	<p>a: (知識・技能) 桜塚高校のイメージを表現することに関心を持ち、形や色彩などの働きを考えながら構想を練ったり、表現したりしようとする。アクリルガッシュ絵の具の特性を生かし、表現方法を工夫して目的や計画をもとに表現している。</p> <p>b: (発想や構想) 条件や美しさなどから、形や色彩などの働きを考えて表現の構想を練っている。</p> <p>(鑑賞) 他の生徒の作品から見えてくる良さを感じ取り、表現への理解を深めることができるか。</p> <p>c: 自身のイメージからアイデアスケッチや下描きから構想を練り表現に結び付けることができたか。鑑賞や振り返りシートで主体性を持って取り組むことができたか。</p>	ワークシート 作品 振り返りシート	作品 取り組み状況 振り返りシート	ワークシート 取り組み状況 振り返りシート
2学期	手の塑像(彫刻)	<p>【彫刻】【鑑賞】</p> <p>1. 彫刻について理解を深め、手の塑像制作の手順を理解する。 意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、立体で表す表現の方法を工夫し、主題を追究して創造的に表す。</p> <p>2. 手から感じ取った生命感などから主題を生成し、材料の特性を生かし、質感や量感、動勢などについて考え、創造的な表現の構想を練っていく。</p> <p>(鑑賞) 彫刻の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。</p>	<p>a: (知識・技能) 塑像、石彫、木彫の作品について特徴などを理解し、粘土の可塑性について知ることができる。 手を様々な方向から観察することで骨や筋肉のふくらみ、や量感・プロポーション、面を捉えることができる。</p> <p>b: (発想や構想) 手から感じ取った生命感から主題を生成し、質感や量感・動勢などを捉えることができる。材料の特性を生かし創造的な表現の構想を練ることができる。</p> <p>(鑑賞) 他の生徒の作品から見えてくる良さを感じ取り、表現への理解を深めることができるか。</p> <p>c: 手を表現する際に何度も手の構造について確認し、主体性をもって取り組むことができたか振り返りシートを使って確認する。</p>	ワークシート 作品 振り返りシート	取り組み状況 作品 振り返りシート	ワークシート 取り組み状況 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

	スクラッチ技法による人物を描こう	<p>【絵画・彫刻】【鑑賞】</p> <p>1、対象の設定 ・対象とする人物を選び、その特性や顔の特徴をつかむ。</p> <p>2、構想を練る ・黒い画面からニードルで削ることで明るさを表現し、立体的に表現できることを理解する。</p> <p>3、完成のイメージをもとにスクラッチ技法で明暗を的確に表現できる。</p>	<p>a: (知識・技能) 多様な絵画表現に興味関心を持ち、対象について描き表現することができる。また、人物画をはじめ様々な表現方法について知ることができる。</p> <p>意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追求して表現している。</p> <p>b: (発想や構想) 写真をもとに人の表情等細かな部分まで観察することができる。</p> <p>(鑑賞) 他の生徒の作品から見えてくる良さを感じ取り、表現への理解を深めることができる。</p> <p>c: 主体性をもって取り組むことができたか振り返りシートを使って確認する。</p>	ワークシート	作品	作品	ワークシート	ワークシート
3学期	文様のデザインと四面体の変わり絵	<p>【デザイン】</p> <p>・教科書に掲載されている作品などを通じて世界の文様の多様さを知るとともに、染や織りなど、どのようにその文様が作り出されているかについて学ぶ。</p> <p>・文様が使われている色や形に注目し、それぞれの特徴や文化的な背景について考える。</p> <p>・文様と生活との関わりや、単純化・繰り返しという文様の要素を学ぶ。</p> <p>・文様を生かし、回転させると4回絵柄が変わる四面体の変わり絵立体をデザインすることができる。</p> <p>【鑑賞】</p> <p>・自身が作ったものや他者の作品について理解し、良さを感じることができる。</p>	<p>a: (知識・技能) 文様のよさや美しさを感じ取るだけでなく、それぞれの文様がどのような発想から生まれているのか、モチーフの単純化や配色・パターンに着目し、分析することができる。</p> <p>b: (発想や構想) 動植物やものの形や色の特徴から主題を生成し、変わり絵の立体に合わせて形と色の組み合わせや構成などの効果について考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>(鑑賞) 他の生徒の作品などのよさや美しさ、作者の意図や表現の工夫などを感じ取り、一人ひとりの作品の違いを認識し理解しようとする。</p> <p>c: 四面体の立体に文様を施し、回転させることで4回絵が変わることを理解し、工夫して創造活動に取り組むことができたか、作品と振り返りシートを使って確認する。</p>	ワークシート	作品	ワークシート	ワークシート	ワークシート
				振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート
						振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	美術2 (光村図書)						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

美術には、私たちが気づいていない大事なもの、見過ごしているものを捉え、多くの人に伝える力があります。自分の身の回りだけでなく、広く社会を見渡して考え美術を通して伝えたいことは何か考え、制作を中心に学習します。

形態や色彩の適切な捉え方や、材料や素材の扱い方・使用方法を学びながら自己の表現力の向上を目指す学習活動を行います。

作品完成後は振り返りレポートや相互評価を行い、作品に対する客観的な視点や相互理解を深める学習活動を行います。

2 学習の到達目標

美術Ⅰで学習した内容をさらに発展させ、造形的な視野について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。

造形的な美しさや、表現の意図や創意工夫、美術の働きなどについて考え、新たな視点や気づきをもって創造的に発想・構想し、価値意識をもって美術文化に対する見方や感じ方を深めることができる。他者の作品を認め相互理解を図ることで、自作品の客観的視点を養うことができる。

主体的に美術の創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	創造的な美術の表現をするために必要な技能や知識を身に着け、形や色彩、素材などの造形的特徴を捉えて主題に沿った表現が行えているかを評価します。	造形的な見方、考え方を働かせて感じたことや考えたことを創造的に表現できているか、また、他者の作品の良さを理解し自身の作品への客観的視点が養われているかを評価します。	主体的に創造活動に取り組み、新たな気づきや視点を表現に組み入れながら活動に取り組んでいるかを評価します。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	絵画表現	<p>[絵画・デザイン]</p> <p>・「フェスティバル」をテーマにモダンテクニックの手法を取り入れた作品を制作する。</p> <p>・主題をもとに構想を練り、アイデアスケッチ等で自分の表現意図に合う方法を工夫する。</p> <p>・表現の意図に応じた材料や用具を吟味して使い、主題を追求しやり切る。</p> <p>[鑑賞]</p> <p>・作品の制作意図について発表し、良さについて確認しあう。</p>	<p>a: (知識・技能)</p> <p>「モダンテクニック」の技法を理解し、テーマである「フェスティバル」に合った素材を作ることができる。</p> <p>b: (発想・構想)</p> <p>「フェスティバル」というテーマをもとに感じ取った事や考えたことから主題を生成し、色彩・構成を工夫し構想を練ろうとしている。</p> <p>(鑑賞)</p> <p>他の生徒の作品から見えてくる良さを感じ取り、表現への理解を深めることができる。</p> <p>c: (主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>自身のイメージからアイデアスケッチや下描きから構想を練り表現に結びつけることができたか。鑑賞や振り返りシートで主体性を持って取り組むことができたか。</p>	<p>作品</p> <p>ワークシート</p> <p>小テスト</p>	<p>作品</p> <p>ワークシート</p> <p>振り返りシート</p>	<p>作品</p> <p>取り組み状況</p> <p>振り返りシート</p>

※令和4年度以降入学生用

2 学 期	C M づ く り	<p>[映像メディア表現]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループを作り「学校紹介」の動画 CM15 秒を制作する。 ・「CapCut」アプリを使い見る人が興味を持てる動画を制作する。 ・グループで制作する中で、自身の役割を明確にし、貢献できるようアイデアを出す。 	<p>a: (知識・技能)</p> <p>CM についての知識と「学校紹介」についての動画制作ということについて理解し、作品にすることができる。</p> <p>b: (発想や構想)</p> <p>「学校紹介」CM の中でオリジナルのアイデアとなるようコンセプトを考え、カメラワークや編集を工夫し作品作りをおこなうことができる。</p> <p>(鑑賞)</p> <p>他の生徒の作品から見えてくる良さを感じ取り、表現への理解を深めることができる。</p> <p>c: グループ制作で自身の活躍とグループの貢献度について相互で評価をおこなう。</p> <p>鑑賞や振り返りシートで主体性を持って取り組むことができたか。</p>	<p>作品</p> <p>ワークシート</p> <p>小テスト</p>	<p>作品</p> <p>ワークシート</p> <p>振り返りシート</p>	<p>作品</p> <p>取り組み状況</p> <p>振り返りシート</p>
-------------	-----------------------	--	---	-------------------------------------	--	--

※令和4年度以降入学生用

	<p>日 本 画 制 作</p>	<p>[絵画] ・野菜や果物を自由に組み合わせてスケッチをす る。 ・スケッチをもとに構想を膨 らませまとめる。 ・日本画材料について理 解し、制作意図に応じて材 料や用具の特性を活かし て表現する。 [鑑賞] ・相互に鑑賞し、自身の作 品について客観的に見る ことができ、他者の良さを 発見する。 ・日本美術について描かれ た当時の美術文化や価値 観などを考える。</p>	<p>a: (知識・技能) 対象についてよく観察し、 構想を膨らませ主題を生成 することができる。 b: (発想や構想) 意図に応じて材料や用具の 特性を活かし、表現方法を 工夫して主題を追求して表 現している。 (鑑賞) 他の生徒の作品から見えて くる良さを感じ取り、表現 への理解を深めることがで きている。 c: (表現) 主体的に多様な絵画表現に 興味関心を持ち、自分の思 いなどをもとにした表現の 創造活動に取り組もうとし ている。 (鑑賞) 主体的に主題を生成した作 品について造形的なよさや 美しさを感じ取り、作者の 思いなどについて考える鑑 賞の創造活動に取り組もう としている。 日本美術の創造的な表現の 工夫などについて考える鑑 賞の創造活動に取り組もう としている。</p>	<p>作品 ワークシ ート 小テスト</p>	<p>作品 ワークシート 振り返りシ ート</p>	<p>作品 取り組み状 況 振り返りシ ート</p>
--	----------------------------------	---	--	--	---	--

※令和4年度以降入学生用

3 学 期	油 絵	<p>[絵画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題を自由に設定し、スケッチや構想を膨らませる。 ・油画材料について理解し、制作意図に応じて材料や用具の特性を活かして表現する。 <p>[鑑賞]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互に鑑賞し、自身の作品について客観的に見ることができ、他者の良さを発見する。 ・西洋美術について描かれた当時の美術文化や価値観などを考える。 	<p>a: (知識・技能) 自身の身の回りを見つめ、構想を膨らませ主題を生成することができる。</p> <p>b: (発想や構想) 意図に応じて材料や用具の特性を活かし、表現方法を工夫して主題を追求して表現している。</p> <p>(鑑賞)</p> <p>他の生徒の作品から見えてくる良さを感じ取り、表現への理解を深めることができている。</p> <p>c: (表現) 主体的に多様な絵画表現に興味関心を持ち、自分の思いなどをもとにした表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>(鑑賞)</p> <p>主体的に主題を生成した作品について造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の思いなどについて考える鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>西洋美術の創造的な表現の工夫などについて考える鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>	<p>作品</p> <p>ワークシート</p> <p>小テスト</p>	<p>作品</p> <p>ワークシート</p> <p>振り返りシート</p>	<p>作品</p> <p>取り組み状況</p> <p>振り返りシート</p>
-------------	--------	--	---	-------------------------------------	--	--

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	203
------	-----

令和6年度 音楽科

教科	音楽	科目	音楽表現	単位数	2単位	年次	3年次
----	----	----	------	-----	-----	----	-----

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

発表を大きな目標として、歌唱、器楽、創作を通して音楽を創り上げる喜びを共感しましょう。またこれまで学習してきた音楽活動を生かし、それぞれの個性をさらに伸ばしてください。また、新しい表現方法についても探っていきたいと思います。

2 学習の到達目標

幅広い音楽の創造活動を通して、新しい未来の姿を構想し、多様な個性を最大限に生かす。社会との関わりの中で、心豊かな生活を創造するための表現の可能性を広げる。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	・音楽の表現の方法や形式、多様性について幅広く理解するとともに、意図に応じて創意工夫した表現をするための技能を身につけ、歌唱や器楽、創作で個性豊かに表現している。	・音楽のよさや美しさを感じ、表現の意図創造的な工夫などについて考え、価値意識をもって、音楽文化に対する見方や感じ方を深められている。	・主体的・協働的に芸術の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を深め、文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造している。

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	自分の声を磨く	【歌唱】 発声法・呼吸法 日本、外国の楽曲	a:【知】言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解している。【技】曲にふさわしい発声、姿勢や呼吸など、身体使う技能、言葉の特性を意識して歌う方法を身に付け、個性豊かに歌唱で表現している。 b:自分の声、楽曲のリズムや旋律を知	観察 ワークシート 演奏発表		

※令和4年度以降入学生用

			<p>覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や特質を感じ取り、どのように歌うかについて表現意図をもっている。</p> <p>c:様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性に関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>		<p>演奏発表 振り返り レポート</p>	<p>観察 ワークシート</p>
	コード理論と創作	<p>【器楽・創作】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コードによる作曲 ・キーボードまたはギターによる創作作品の演奏 	<p>a:【知】コードの理論、音の重なりによる響き、コードの種類、音型や構成上の特徴について理解し、創作ができている。【技】コード進行にふさわしい旋律を創作し、それによって生み出される表現上の効果を生かして演奏する技術を身に付けている。</p> <p>b:ギターの音色、奏法との関わり、およびその関わりによって生み出される表現上の効果を工夫している。</p> <p>c:コード進行に関心を持ち、主体的・協働的に活動に取り組み、音楽文化に親しもうとしている。</p>	<p>観察 ワークシート 演奏発表</p>	<p>演奏発表 振り返り レポート</p>	<p>観察 振り返り レポート</p>
2・3	弦楽合奏	<p>【器楽】</p> <p>ヴァイオリン ヴィオラ チェロ の基本的な奏法 「ふるさと」</p>	<p>a:【知】基本的な奏法と音色や奏法との関わりについて理解している。</p> <p>【技】曲にふさわしい奏法、身体の使い方の技法を身につけている。</p> <p>b:演奏に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージを持って演奏を創意工夫している。</p> <p>c:弦楽器の音色と奏法に興味関心を持ち、主体的・協働的に弦楽器の学習活動に取り組もうとしている。</p>	<p>観察 ワークシート 演奏発表</p>	<p>演奏発表 振り返り レポート</p>	<p>観察 振り返り レポート</p>

※令和4年度以降入学生用

	自由発表	<p>【歌唱・器楽・鑑賞】 様々な形態による発表会</p>	<p>a:【知】自分にふさわしい表現方法について理解している。 【技】自分が表現したいと思う字歌唱または楽器の奏法を身につけている。</p> <p>b:演奏の形態や組み合わせによる音色や特徴を生かし、自己のイメージを持って演奏を創意工夫している。楽器の役割やパートによる音の重なり方、演奏者による表現を味わって聴いている。</p> <p>c: 他人の演奏にも興味を持ち、発表の段取りと鑑賞にむけて主体的、協働的に取り組んでいる。</p>	<p>観察 ワークシート 演奏発表</p>	<p>演奏発表 振り返り レポート</p>	<p>観察 振り返り レポート</p>
--	------	-----------------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	-----------------------------

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道造形	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	中国書法選						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

好きな古典を選び、書体・書風の特徴を探求していきましょう。
各自が主体的に取り組んでいくことを目標に、大きいサイズの作品制作にも挑戦します。作品を表装し、展示するところまでを自分たちで行います。達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。

2 学習の到達目標

幅広い芸術の創造活動を通して、多様な個性を最大限に生かす。
書の古典を中心に鑑賞力、表現力を修得することで、感性を高めるとともに造形感覚を養う。

(4) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。

(5) 書の良さや美しさを享受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。

(6) 主体的に書の造形的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	・書道の表現方法や多様性について幅広く理解している。 ・書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身につけるようにする。	書道の良さや美しさを感じ、表現の意図と創造的な工夫などについて考える。価値意識をもって芸術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的・協働的に芸術の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育む。心豊かな生活や社会を創造していく感性を高める。

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)

※令和4年度以降入学生用

一 学 期	漢 字 の 書	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな古典を選び、その古典について学びを深めていく。 ・条幅作品を完成させる。 ・裏打ち、軸表装する。 	<p>a:自分の選んだ古典について、情報収集し、理解を深めている。</p> <p>b:古典の臨書をするにあたり、書体の特徴、表現技法について理解し工夫している。</p> <p>c:裏打ち、表装に関心を持ち、表装の効果的な技能を身につけている。</p> <p>d:書の作品制作、鑑賞の学習活動に積極的に取り組もうとしている。</p>	作品 レポート	作品 レポート	作品 レポート 授業への 取り組み
二 学 期	篆 刻、 刻 字	<ul style="list-style-type: none"> ・篆刻を構成する書体、書風や配字等による表現の効果を理解する。 	<p>a:篆刻を構成する様々な要素、書体、書風や配字等による表現の効果を理解している。</p> <p>b:篆刻の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫している。</p> <p>c:篆刻の創造的な表現を主体的に学習活動に取り組もうとしている。</p>	作品 ワークシ ート	作品 ワークシ ート	作品 ワークシ ート 授業への 取り組み
三 学 期	漢 字・漢 字 仮 名 交 じ り の 書	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字(顔真ケイ) ・漢字仮名交じりの書 	<p>a:顔真ケイの個性豊かな書体の中から好みものを選び、学びを深めていく。</p> <p>b:自己表現のための撰文や、書体の選択を行い、創造的な表現の技能を身に付け表している。</p> <p>c:互いの作品を鑑賞し、その良さや美しさを味わっている。</p>	作品 ワークシ ート	作品 ワークシ ート	作品 振り返りプ リント

令和6年度 芸術科

教科	美術	科目	造形演習	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	自主教材						
副教材等	自主教材						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

造形演習の授業では、感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成します。特に、素材についての理解や、工芸品についての歴史やものづくりについて身近な生活の視点に立った発想や構想を、作品づくりを通して学んでいきます。社会的な視点に立った発想や構想ができるようになることが目標です。

2 学習の到達目標

- ・造形的な視点にたち、素材について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。
- ・造形的な良さや美しさ、表現の意図や創意工夫などについて考え、新たな視点や気づきをもって創造的に発想・構想し、価値意識をもって造形文化に対する見方や感じ方を深めることができる。他者の作品を認め相互理解を図ることで、自作品の客観的視点を養うことができる。
- ・主体的に造形の創造活動に取り組み、生涯にわたり造形を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、造形文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどのついて考え、心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術文化や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。	主体的に美術工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

※令和4年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	石 の 張 り 子	目の前の石そっくりの張り子を制作する。石の着色デッサンを行うことで石の質感や形状・色の変化を確認することができる。 石を型にし、周りに紙を洗濯のりで張り付ける。型から取り出した張り子を水彩絵の具で着色する。 [鑑賞] ・作品の制作意図について発表し、良さについて確認しあう。	a: スケッチから石の細かい色の変化や質感を見ることがでる。 張り子制作の手順を理解し、型である石から取り外せるよう作業を進めることができる。 b: 型から取り外した張り子に着色する。本物の石の色や質感を水彩絵の具で混色しながら筆を効果的に使い表現する。 c: スケッチから石の細かい色の変化や質感を見ることができ、表現に結びつけることができたか。鑑賞や振り返りシートで主体性を持って取り組むことができる。	作品 ワークシート	作品 ワークシート 振り返りシート	作品 取り組み状況 振り返りシート
	段ボールの帽子	・段ボール素材について理解し、加工方法を知り、「帽子」を制作する。 ・「帽子」の機能性を理解したうえで主題を生成し制作することができる。 ・梱包材として使用される段ボールだが、用途が済むと廃材となる。廃材を利用して作られるものについて「価値」とは何か考えることができる。 [鑑賞] ・作品の制作意図について発表し、良さについて確認しあう。	a: 段ボール素材を加工する際の「切る」「剥がす」「曲げる」について理解することができる。 b: 段ボールの素材を活かした「帽子」をデザインし、制作することができる。 「価値」について考えることができ、廃材=段ボールを形あるものに作ることができる。 c: 自身の考えたアイデアを通し制作することができ、効果的に表現できるよう粘り強く課題に取り組もうとしている。 鑑賞や振り返りシートで主体性を持って取り組むことができる。	作品 ワークシート	作品 ワークシート 振り返りシート	作品 取り組み状況 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

2 学期	牛革モビール	<ul style="list-style-type: none"> ・牛革で作られる工芸品や商品について調べ、歴史や加工方法について知る。 ・牛革の端切れを使ってモビール制作を行う。モビールとは彫刻のことで、もののバランスをうまく捉えながら作品を制作する。 ・モビール作品の主題を生成し、牛革の素材を活かした作品を制作することができる。 <p>[鑑賞]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の制作意図について発表し、良さについて確認しあう。 	<p>a: 牛革素材について加工方法を知り、制作につなげることができる。</p> <p>b: モビールを制作する中で、バランスを取りながら各自のテーマに沿った作品を制作することができる。</p> <p>c: 自身の考えたアイデアを通して計画立て、効果的に表現できるよう粘り強く課題に取り組もうとしている。</p> <p>鑑賞や振り返りシートで主体性を持って取り組むことができる。</p>	作品 ワークシート 試作作品	作品 ワークシート 試作作品	作品 取り組み状況 ワークシート 試作作品
	ポップアップカード	<ul style="list-style-type: none"> ・ポップアップカードの特性を知り誰に、何のために贈るカードなのかについて考え、色画用紙等を使ってカードを作成することができる。 ・カードを贈る対象やメッセージからデザインや配色を考えアイデアスケッチや展開図を作成することができる。 <p>[鑑賞]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の意図について発表し、良さについて確認しあう。 	<p>a: ポップアップカードの飛び出す仕組みについて知ることができる。</p> <p>b: 飛び出す仕組みを活かし、自身が考えたコンセプトに照らし合わせ、デザインと仕掛けを考えることができる。</p> <p>c: 自身の考えたアイデアを通して配色計画をし、効果的に表現できるよう粘り強く課題に取り組もうとしている。</p> <p>鑑賞や振り返りシートで主体性を持って取り組むことができる。</p>	作品 ワークシート 試作作品	作品 ワークシート 試作作品	作品 取り組み状況 ワークシート 試作作品
3 学期	ウォールステッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリアシートを使って切り絵の技法を応用したステッカーを考える。 ・グラフィティアートについて考えることができ、人に訴えることができるような言葉や絵柄を考え、効果的に見せることができる場所はどこか考えることができる。 <p>[鑑賞]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の意図について発表し、良さについて確認しあう。 	<p>a: グラフィティについて、キースヘリングやリキテンスタイン、バンクシー等のアーティスト等を調べ伝達効果について知る。</p> <p>b: 自身の考えたアイデアから、効果的に表現できるよう切り絵の技法を駆使し、素材を活かした作品を制作する。</p> <p>c: 自身の考えたアイデアから制作の計画を立て、効果的に表現できるよう粘り強く課題に取り組むことができる。</p> <p>鑑賞や振り返りシートで主体性を持って取り組むことができる。</p>	作品 ワークシート 試作作品	作品 ワークシート 試作作品	作品 取り組み状況 ワークシート 試作作品

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度